

本コーナーでは漢方の専門医が日常診療で出会う患者さんを例に、漢方処方を決定する際の留意点と、漢方薬の服用によって症状が改善していく経過を解説します。さて、今回はどのような症状にお困りの方なのでしょうか。

〔カルテ 11〕 慢性・習慣性の便秘に対する漢方治療

母親

まだ寝てるの？
会社、遅刻するわよ。

こらこら、
ずる休みはだめよ。

Kさん

ここ5日間ぐらいお通じがないの……、お腹も張って気分悪いし……頭も重いから、今日会社休もうかな……

患者プロフィール

Kさん・33歳・女性

- ・大手広告会社で経理を担当しているKさん。日ごろから便秘がちで最近は特にひどい。顔に吹き出物も増えてきて、人と会うときもつつい下を向くことが多くなった。
- ・憂うつで頭も重く、計算間違いも増えている。腹部膨満感もあり食欲もないので、ボーイフレンドに食事に誘われても楽しくない。職場に通うのもつらいので、漢方クリニックを受診した。

漢方医学による
診断(四診*)

※問診、望診(見ることによる診断。舌診など)、切診(手で触れる診断。脈診、腹診など)、聞診(聴覚、臭覚による診断)の四つをいう。

● お通じは時々あるが、ない日も多く、溜まっている感じ。
● お腹も出ており、体重や吹き出物も増えた。

● 花輪:便秘でお困りなんですね。

● Kさん:はい。お通じは時々あるんですけど、いつも溜まっている感じでお腹もぼっこり張っています。今回は5日間便秘が続いています。

● 花輪:どういうときに、特にひどくなりますか。

● Kさん:そういえば、生理の前は必ずひどくなります。

● 花輪:そうですね。典型的な習慣性の便秘ですね。だいぶお腹も張っていますね。運動はしていますか。



Kさん: 経理の仕事なので、1日座りっぱなしです。こここのところ食欲がないので食べていないのに、それでも2kgぐらい太ったんですよ。変ですよ。

花輪: 運動不足で便秘をすると、体重が増えることはよくあります。西洋医学のお医者さんにもかかったことがありますか。

Kさん: 以前に2回ほど……。やはり便秘といわれて、お薬をいただいたのですが、お腹がすぐに痛くなって、下痢もしました。

花輪: 下剤ですね。それでは体力的に疲れるでしょう。大黃甘草湯という漢方薬をお出ししますから、飲んでみてください。通常の半分の量で始めてみましょう。

Kさん: ありがとうございます。



処方選択の理由

しっかり大腸を動かす「大黃」と、下痢や腹痛を軽減する「甘草」。 大黃甘草湯は生薬の力で便秘をより自然に改善します。

大黃甘草湯は、大黃と甘草という2つの生薬を配合した漢方薬です。大黃には「センノシド」と呼ばれる強力な瀉下活性(排便を促す作用)を示す成分が含まれています。古来、その強い作用から大黃は生薬の「將軍」といわれてきました。センノシドは、胃や小腸には刺激を与えずに大腸に達し、腸内細菌の力でレイアンスロンという物質に変換されて排便を促します。もともと体に備わっている代謝作用によって活性物質に変化して薬効を示す薬をプロドラッグといいますが、大黃はその先駆けともいえる生薬なのです。

一方、甘草はさまざまな生薬の力を調和させる機能をもつ生薬で、漢方薬の約7割に甘草が含まれています。將軍に仕えて国の運営をつかさどる参謀的な役割を果たす「国老」の別名をもち、大黃甘草湯では大黃の瀉下効果を後押しするとともに、大黃の強い作用のために起きることがある下痢や腹痛を軽減する働きがあります。

大黃甘草湯

大 黃

大腸の蠕動運動を強力に促進させる

甘 草

生薬の力を調和し下痢や腹痛を軽減する

処方名	構成生薬	効能
大黃甘草湯	大黃、甘草	便秘、便秘に伴う腹部膨満・ふきでもの(にきび)・腸内異常醗酵・痔・頭重・のぼせ・湿疹・皮膚炎・食欲不振(食欲減退)などの症状の緩和



効果はすぐに現れますが、服用量を調整して様子を見ます。数日間続けると安定してお通じがくるようになります。

処方翌日

花輪：いかがですか。

Kさん：それが、まだすっきりしないんです。

花輪：やはり半量では少ないのかもしれないね。それでは通常量をお出ししましょう。



1ヶ月後

Kさん：えっ!! スカートをゆるくしたみたい。

母親：それはよかったわ。漢方が効いたのね。

Kさん：今夜はデート。顔の吹き出物もなくなったし。よーし、うんごちそうしてもらおっと!



1週間後

花輪：顔色がよくなったようですが、効きましたか。

Kさん：はい。お薬を増やしていただいたあと、便が出るようになりました。お腹の張りもなくなり、快適です。

花輪：そうですね。ある程度出るようになったら服用間隔をあけていきましょう。



花輪先生から店頭へのメッセージ

漢方薬は構成生薬の数が少ないほど効き目がはっきり出るといわれています。大黄と甘草の2つの生薬だけで構成される大黄甘草湯も、体力に関わらずしっかりした効果を示します。ただし、大黄甘草湯は腸内細菌の分布によって効き方が異なることがありますので、便秘の状態によって半分の量から開始したり倍量にしたり、薬の量を調整することがポイントです。

大黄甘草湯を服用して効果が現れない場合は増量を、効果が得られれば減量し服用間隔をあけるよう、アドバイスしましょう。なお、抗生物質は腸内環境のバランスを崩してしまうことがあるので、大黄甘草湯の処方をお勧めする場合は、抗生物質を服用していないことも確認していただきたいと思います。